

刊夕... 行發日六十月三... (休刊日翌日祭曜日) 番五五八〇一東京登報

日本童話變遷史

藤田 健次

斯様に異説も大分あるが踏むな。いづれは皇太子で... 人間に知らぬ秘密を暗示... 云ふが如き解釋はどうかと十八年間の事を記した...

天には琵琶を打つた玉の原の掛ひくまらに牛車によけんや、からさの小さき花と云ふ童話がある。話の意は「宮中では琵琶などを弾いてゐるのに、眞恒親王は宮人の裾を引いて牛車に乗りこむ」と云ふ事だ。

野麥 原稿募集 四月下旬創刊... 詩歌 二篇以内 十首以内... 俳句 十句以内... 小説 十頁以内... 必す原稿用紙を用ゐること... 送りは平町四丁目マルトモ書店宛

大宮に 直に向へる 野部の坂 痛くな踏みそ 土にありとも... といふ童話が『日本書紀』卷十三にある。これは桓武天皇がまだ皇太子にも立ち給はぬに、既に世にはやがての詔の意は「大宮に直に向へる」といふ事だ。

筆 永井善太郎... ときたない手拭で目を洗ひ、先生は目の前に見か持つてゐるはつ無いたつた品

妖刀流轉

佐々木 貞吉

「其代りの妖刀の妖刀の魂、魂此土に止まつてお部屋を取殺しお家の爲にならぬの女、きつと祟つてこの怨みを晴らすには置ませぬ」と眼を血走らせて御殿の方をハッタと睨んだ形相は物凄程でありました



「先生、私のおあしがあつた、断へるのであります」と、断へるのであります

松ヶ岡より見下せる 威厳深し安藤公... 3月17日 △兒島高徳王の詩を櫻樹に記す(元弘) △二宮尊徳農村の復興を成田不動に祈願(文政二) △和泉要助人力車営業を出願(明治三) △關門海峡に海底電信線敷設(明治六) △日露戦争のロシア軍總司令官更迭(明治三八)

鮫川砂利採取及販賣... 砂利採取場 山田村法田... 植田物産株式會社

新時代の職業 コツク見習募集... 小卒卒業生十六歳ヨリ十八歳迄ノ方優遇ス

精神科 脳脊髄病科 神経病科... 郡山脳病院

第一質品 平牛乳舎... 平町・九品寺前

婦人科 産科 外科... 長木村寅次郎

木村病院... 平町新川町十九番地

桑原柔道整骨院... 平町公園下

市川パン店... 品質本位で安く賣る

根本婦人科醫院... 平町南町五二

吸入用酸素純度99%... 吸入用酸素

上田醫院... 平町

安齊醫院... 平町

集募徒生... 藤田女學校

諸機械製作販賣... 田邊製作所

井坂産科醫院... 平町田町

連日満員御禮... 豪華なサロン

